



東九州支部報

第70号

公益社団法人日本山岳会 東九州支部
2015年7月25日(土)発行



5月月例山行 傾山 (5月24日(土)山頂三角点にて)

目 次

支 部 活 動 報 告		ペンリレー(17)「山との関わり」	8
5月月例山行報告・傾山	2	パピルフェスタ・in 坊ガツルに参加して	9
6月月例山行報告・石堂山	3	三角点と山城探訪シリーズ(15)	10
関西支部80周年記念行事参加報告	4	私の無名山ガイドブック(57)	11
個 人 投 稿		平成27年度通常総会報告	12
より安全な登山のために(17)	5	お知らせ	13
羊蹄山に登る	7	後記	15

新緑の傾山(1602.0m)

むこうかまど谷コースを登る

5月月例山行報告

長野 圭子(会友66)

朝5時、大分駅上野の森口を久保車、芝田車2台が三重町大白谷へ向かって出発。途中、三重駅で高橋車と合流。中野車、石川車は大白谷広場で落ち合う予定。三重町で稲積水中鍾乳洞への道に左折し、中津無礼川(白山川)に添うように走る。

白山川は全国名水100選に選ばれた清流。鍾乳洞付近では、一時は絶滅状態になったホタルを救う為に30年くらい前から地元住民らの活動により、今では幻想的なホタルの乱舞が見られるところだ。

中山峠で林道入口の標識に従い左へ鋭角に曲がる。この林道は軌道跡と思われる幅が広いが、乗用車は腹底をこすらないような注意が必要である。10台くらいは止められそうな広場に駐車した。

中野車、石川車は駐車してなかったがまだ上の方で駐車していると、私たちは登山道入り口目指して歩いていたら、前方から中野車、石川車が下ってきた。これで総員17人が揃った。

駐車した先も林道は幅が広くて歩きやすく20分くらいで登山道入り口に着いた。ここには登山届や立て板がある。自己紹介をして7時40分登山開始。いきなり急登が続く。遠江さんは途中でリタイア。

最初の急登を20分くらい上ると歩きやすい軌道跡の道になり、営林小屋跡まで続く。8時20分頃、左下に流れの音を聞くようになると大きな営林小屋跡に着く。

朽ちかけた元営林小屋は新緑やウツギの景色の中で、はがれ残ったトタン板の壁の赤色や錆び色を見せている。ブナや杉などを伐り出していた頃の賑わいの名残は軌道跡の林道とそれを支える石垣か。

小屋から少し行くと、登山道を逸れて谷を渡ります。この谷はあおすず谷で、この下で中津無礼川がむこうかまど谷とあおすず谷に分かれています。尾根を巻いてむこうかまど谷に添って登っていくことになりました。

二段構えの大きな滝が樹木を透かして見え隠れする。流れの水はきれいだ。コケで滑りやすい難儀な大岩を上るときザイルを使用した。岩場を渡ったり登っ

たりを何回もした。



(向こうかまど谷を渡る)

この先のコースは東傾から延びている稜線の道へ上り、そして山頂直下で後傾からの道に合流して頂上へ向かうのだが、ゴロゴロ石の続く急坂で私はついに太ももにきてしまった。中野さんに薬を頂き攀りは収まって、佐藤さんにエスコートしてもらっても皆に遅れてしまうので、12時頃に佐藤さんの配慮で私は傾山への直登の近道を上ることになった。

この近道上りもやはり急坂だったがコバイケイソウや山シャクヤクが群生していて、花の時は見事な花園だろう。山シャクヤクは残念だったが咲いた後で、2本の角ができていた。

木々の緑を透して上方に青空が見えるが稜線はまだまだ遠い。やっと前傾きの稜線に出て、13時15分山頂に到達した。みんなは既に12時55分に頂上に着いていたという。

気象予報では天気は曇りから雨となっていたが素晴らしい日和に恵まれ、祖母山からの縦走路の山々、九重の山々、由布岳、そして南には大崩山と360度の大パノラマである。他のメンバーも良い日和に恵まれたと口にしていた。

話はそれるが、私は20ウン年前に最後の傾山登山をした。県外の人から、大分の山でお勧めの山は?と聞かれると必ず「傾山」を紹介したほどだ。

頂上が庭園のような美しい山だったのでいつかまた登りたいと思っていた。でもその当時もきつい山行だったのでそれ以来もう無理と諦めていた。

ところが今回、リーダーにコースを尋ねたら大白谷からむこうかまど谷と言う。ナント!今まで登ってないコースなので、無謀にも日頃の体力のなさを考えずに参加してしまった。

さて山行報告に戻って。頂上で記念写真を数枚撮ってもらい13時50分、下山にかかる。山頂直下で東傾(三角点・西山をチェック)に向かい冷水コースを



(稜線直下の登り)

下る飯田さんと分かれる。そこから10分ぐらい下ると案内板があり道が分かれていて、水場コース組11人と、三つ坊主コースに果敢に挑んだ佐藤、芝田、丹生、久知良の4人組とに分かれた。あおすず谷の水場コースは枯葉を踏みサクサクと気持ちのよい音がする。

タチツボスミレや小さな黄花のマンネンソウが咲いている。石車や木の根っこに注意しながらどんどんと谷は下って最後に少し上って三ツ尾に着いたのが15時30分。

ここで三つ坊主コース組を50分ほど待った。三つ坊主コースは岩峰群を越す難コースで1時間は余分にかかるかと本にある。

三ツ尾からは赤いテープを目印にあおすず谷を営林小屋跡を経由して登山道入り口に17時30分、そして駐車場所に18時ころ着いた。リーダーの予定表には16時となっているが、

遠江さん、随分お待たせしました。

駐車場で反省会では、「余裕の登山ができてまだ難しい山に登りたい」(?)など元気な発言が笑いを誘った。

みなさん満足された山行だったようです。私は以後足の攣れも起こさず無事に下山でき、嬉しい傾山登山でした。佐藤さん、中野さん、そしてみなさんに感謝です。

なお、東傾、冷水コース下山の飯田さんは、17時前に白山神社へ下山し、1時間ほど待ったあと、皆があまり遅いので、心配した地元の人が車に乗せて林道を迎えにきているのに出会いました。

参加者…久保(リーダー) 飯田、石川、岩崎、神田、久知良、佐藤(秀)、芝田、高橋、遠江、中島、中野、丹生、松浦、宮本、若月、長野

石堂山(1547m)天包山(1188m)

6月月例山行報告

柳瀬里子(会友163)

6月の月例山行は、6月13日天包山、14日は石堂山から樋口山へ縦走するコースが計画された。雨が心配な梅雨時の山行は気が揉める。朝方、薄日も差ししておりお天気に期待して大分駅を出発した。北川はゆま道の駅に着くころには暗雲が立ち込め西都ICに着く前からとうとう大粒の雨が落ちてきた。残念ながら天気予報的中。

西都市街ではなかなか食事処がなくやっと探し当てた店(すき家)で昼食をとる。登山に備え、豪快に牛・鰻丼でスタミナをつける者もいた。食後、今日の目的地天包山登山口を目指し出発したが雨脚が強くなり急遽直接双子キャンプ場に向かう。大雨につき予定したテント泊は無理と判断しバンガロー4棟を借りることが出来た。少し小降りになった中、登頂を諦めきれない2名だけで天包山を目指す。

8合目までは車で行くことが出来、そこからの登山道は整備されて歩きやすい。登山口に西南戦争の碑があり少し上の坊主岩には燧発を極めた攻防戦の弾痕が無数に刻まれていた。またこの坊主岩に上がると雨が降り出すと言いつたこと。岩に登らずに進んだおかげが、頂上に着くころにはほとんど雨も止んでいたが眺望は全く利かなかった。行き帰りともに至近距離で鹿が挨拶をするかのように可愛らしい姿をみせてくれた。

他のメンバーはこの間にキャンプ場に隣接する温泉「ゆたーと」に入浴したり、3班に分かれ夕食の用意をした。1班はすき焼き、2班はカレー、3班はスペシャルサラダ付カレーといずれも力作で、他の班と交換しながら別メニューの味を楽しんだ。夕食後、バンガローのすぐ下を流れる川の増水を心配しつつ、入浴後の9時頃には就寝。

全員テント泊の予定だったが、雨のために急遽バンガローを申し込んだが3棟しか借りられず、狭いのでテント泊にした者もいたと聞く。

翌日、目覚めの頃には雨も止み今日は期待できるかと思いきや、5時前から食事の準備にかかるころにはまた嫌な雨が降り出した。中止するかどうか、ともかく石堂山登山口に行ってから考えようという事で雨具を付けて出発。



登山口までは舗装道に落石も多数ころがり先頭車は時折停車しては石を取り除けて進むという具合だった。登山口到着時も雨がやむ気配がない。3名が車に残留し12名で出発。6合目の標識のあたりで雷がゴロゴロ鳴る。とりあえず7合目までは進み、その時点で進退を考えようという事で出発。7合目の少し前あたり全員で協議のうえ天候の改善が見込めないためここから雷がゴロゴロ鳴り出し稜線の風も強まった気がした。全員で協議のうえ天候の改善が見込めないためここで断念することになった。



(石堂山7合目で)

下山後は濡れて冷えた体を温めるため温泉「ゆたーと」に入浴。なめらかな湯質の「美人の湯温泉」につき今日疲れを癒した。そこで今後の行事予定を確認し解散となった。

今回は宮崎県西都市から西米良村までの1泊2日の山行が雨に阻まれてしまった。それでも新しく全面開通した東九州道を走り、雨に煙る緑深い山の景色を満喫し、豊かな温泉を楽しむことが出来、「状況によっては退却の決断も重要」と学んだ山行であった。

参加者…中野(リーダー) 加藤、飯田、久保、佐藤、芝田、松浦、丹生、久知良、賀来、岩崎、工藤、渡辺、遠江、柳瀬

関西支部創立80周年記念行事に参加して

六甲山登山など「

中野 稔(13997)

関西支部創立80周年、1935年昭和10年創立という。戦前のお話であるが親父やお袋達の青春時代となれば他人ごとではない。両親達のお話からすれば、今の日本人は世界に対して隠することなく、恥じることなく堂々と胸を張って生きて行くべきだと思う。

登山に対する情熱は、人々が人生の生きる意味を探しだしてきている所から生まれている。家長制度の時代では、船長が各家庭の舵を握っていたが、今日では1人1人が自分の人生の舵を自己責任で取るように求められてきている。何事も真摯な態度で立ち迎えば感動と喜びは計り知れないものとなる。

5月29日午後5時半頃、大分港に東九州支部の元若者たちが集結。子供やお孫さんと携帯の待ち受け画面で、心が繋がっているらしい。談話室を占領して期待に胸を膨らませ過ぎたのかもしれない。

19時55分大分港を出港8時前に神戸港に到着。関西支部80周年記念の会場の六甲荘に荷物を置いて行動組と姫路白鷺城直行組に分かれる。さらに六甲荘組も二手に分かれ、私は異人館を散策と酒蔵廻り組に加わる。

午後1時半、六甲荘にもどり受付。午後2時30分開会。重廣支部長の青冊など、まずは記念式典。そのあと記念講演。そして加藤文太郎の演劇で盛り上がり、貧乏人でも山に登れることを自らの人生で証明したのもであった。孤高の人というより、地上の星の1人かも知れない。山は来る人を拒まず、去る人を追わない。自然がそうであるように、来るもの全てを祝福する。それはまるで神社やお寺の様に泰然自若として、堂々と構えている。母や父の様に人々をやさしく包んでくれる。

休憩中に風呂に入り、午後6時から懇親会。宴たけなわとなり、参加支部の紹介と演芸披露。東九州支部は「坊がつる讃歌」を歌う。

翌日31日の記念登山は好天のもと元、山行参加の組は芦屋川駅から六甲山へ。芦屋の高級住宅街を抜け山道へ。入り口に2軒の茶屋があり、小さな滝を見て登っていく。日曜日、さすがに神戸の裏山とあって登山者が多い。ロックガーデンという、関西の岳人た



(六甲山山頂にて東九州支部全メンバーと重廣支部長・右端)

ちがかって、岩登りの練習場としていたところを登り、雨ヶ峠へ。

猪に注意という警告の看板が幾つもあったが、峠の手前で遭遇。人慣れしたこの猪は、道の脇にいてひっきりなしの登山者に逃げようとしないう。これを見て泣いて母に抱きつく女の子がいた。

一旦谷に下ってジグザグ登りで登りつくとドライブウエー。さらに舗装の車道を登ると山頂。

重廣さんに六甲山の旧山頂に案内してもらおう。米軍が占領中には山頂一帯が軍用地として接収されていたため、その当時の六甲山山頂(931.13m)としていた

ところで、そこにあるケルンにその説明がある。軍用地開放後の本当の山頂はその少し奥の広いところで、山頂広場となっている。ここで東九州支部全員集合の写真を撮って昼食。

ドライブウエーに下って、ここで観光班もカワイリ一緒のバスで有馬温泉へ。温泉で山の汗を洗い流して、すっきりして、バスで神戸三ノ宮駅へ。新神戸駅まで一緒のバスで見送ってくれた重廣支部長。その顔は大きな仕事をなし終えた安堵感のようなものが感じられた。

帰りのサンフラワーでは、レストランで師陪だけの懇親会。参加されたみなさまに御苦労さまでしたとエールを送りたい。加藤支部長や、飯田事務局長にも有難うを送ります。



(六甲山旧山頂標識)

参加者…加藤 星子、西 飯田 阿南、木本 佐藤 中野、久保 下川 (幸)、下川 (智)、渡辺 (千)、渡辺 (和)、宮原 若月、工藤

個人投稿

より安全な登山のために N017

『以心伝心』

安東桂三 (9193)

数ヶ月前国東半島の並石(なめし) 耶馬にJAC東九州支部の有志(Na、K、S)と私の知人(Ni)の計5名で行きました。発起はKさんで、並石耶馬のある尾根に行ってみたいとの誘いでした。

国東半島は古い火山半島で両子山が中心。文殊山、千灯岳などが側火山としてあり、西面には曇山、その手前に並石耶馬があります。そこは火山性の礫岩や凝

灰角礫岩からなる岩山で、浸食によって生まれた奇岩怪峰と尾根筋があります。最高峰は鬼城(きしろ)450m。Kの計画は271.1m三角点から南尾根を登ると言うものでした。鬼城は昔鬼が住んでいたと言うことで、名付けられたとされています。

あまり人の訪れないルート、情報のないルートなので、ロープやカムを始めとするいろいろな装備を持参しました。並石ダムの湖畔から271.1m三角点に登り上がりました。そのまま痩せ尾根を進むとピークあがったので、ブッシュを支点に懸垂に登り下降し(写真)、痩せ尾根を進みました。



(ピークから懸垂下降)

ギャップから尾根に登り上がり、次のリッジに登り登るところが少し悪かったので、リードしていた私は一度もとに戻り、少し思案しました。その間にNaが登り始め、その悪い場所に取り掛かりました。皆が『ロープを出しよ』と言う声にNaはそのまま登り、途中で手袋も脱ぎ捨てて登り上がりました。

Naの動きをみて私の友人Niに『ロープを出せ』と言いましたらロープを出しただけだったので、私は『ロープを出せと言ったらロープを出すだけでなく、ロープを解いて、末端に結ばって確保をすることを言う』と伝え、皆に『ロープを出しよと言うだけでなく、ザックからロープを出してNaに末端を渡すようにして』と言いました。

私は準備をして途中の残置手袋を回収し、Naのところに登り、『あまり無理をしないでよ。落ちたら痛いから』と伝え、そこからは5人が2パーティに別隔時登攀(写真)となりました。浸食によって(隔時登攀



(スタカットクライミング)

尾根筋はボロボロ、岩が剥がれるようなところが多く、苦勞し、昼食後(写真・次ページ)、結局完登ならず、途中より沢へ懸垂下降し、下山しました。

よくクライミングとか沢登りとかパートナーのことを思い、あるいはパーティのことを考え、行動するこ

とが必要となります。『こうして欲しいな』と以心が伝わらないので、言葉で出さずに『まあ良いか。ロープを出さなくても』『まあ良いか。落ちやしまい』と行動を起こします。そうするとしっぺ返しを食らい、大変なことになります。



(テラスで昼食中)

岩を登っていてルートが少し厳しく落ちるかもしれないと思った時に、少し確保が頼りなさそうなときに『頼むで』とパートナーに声をかけて行きます。本当はそのことを言わなくても伝わるように以心伝心が必要といつも思います。

数年前関西支部長の重広さんと、当支部のNa、K、Sが根子岳を西峰から天狗岩に縦走しましたが、重広さんが天狗岩を登っているときに、確保しているKに対して『話をせんでしっかり確保せよ』と大声で言ったということがありました。これも以心が伝心しなかつたか?かと思います。

ハイキングでも、パートナーの様子をみて、早めに声かけしたり、行動変更したりしないと、パートナーが意思表示しない人だったら、ばて過ぎてしまって行動不能になったり、あるいはパートナーが本当は通過に不安を覚えているところで滑落したりとなります。

冬山とか、状況が悪い時ほど以心伝心の能力が必要となります。パーティのトップとラストの間隔が長くなったり、悪天(吹雪)で自分の行動がやっとなったりとかそのような状態のときは、その能力不足でパートナーを失うか、自分も痛い目に遭うことになります。

羊蹄山(1898m)に登る

十二支会例会

加藤英彦(8765)

元日本山岳会会長の今西錦司先生が提唱したその年の干支の山に登る会がある。「十二支会」という会で会員も関西を中心として百名くらいいる。私も8年前の国東、猪群山の例会より入会して毎年1月の例会に出かけている。

今年で56回目をむかえた羊年の1月、兵庫県の檜ヶ岳(582m)に登ったのだがその時に今年は特別に北海道の羊蹄山(後方羊蹄山、しりべしやま)に登ろうと決めた。

6月28日羊蹄山の麓、ニセコのホテルに35名の仲間が集まった。久しぶりでメンバーの再会での前夜祭だったが翌日の早い出発のため2時間で終了。早いお開きとなった。

29日早朝4時起床。外はガスで小雨模様だ。早立ちのため朝食は2個配られた内の一個を食べ6時には出発。登山口までは車で20分。今日のルートは具知安から登る比羅夫ルートだ。登山口には駐車場、トイレ、水場、そして東屋と整備されている。

雨具をつけての出発となる。十二支会の旗を先頭に列をなして登りだす。トドマツ林の中クマ笹の整備された道をゆるやかに登っていく。1合目の標識にて休憩、これからすこし斜度がましてくる。シラカバ林にかわる。足元には大ぶりのマイズルソウが咲く。風穴をすぎるとジグザグのすべりやすい登りとなり三、四、五、合目と標識が示すだけの単調な登りをただひたすら高度を上げることとなる。

一合目毎の標識の間25~30分のペースである。五合目をすぎるところよりさらに斜度もきつくなり行く手を阻むようにダケカンバの枝が頭にかぶさって注意しての登りだ。晴れていけば眺望も良くなっていくところだろうが霧でなにもみえない。七合目をすぎるとあたりから植生がダケカンバの疎林にかわりハイマツもあらわれてくる。

八合目をすぎると足元がガシ場となってくる。しかし高山植物の花が次々とあらわれていやしてくれる。九合目をすぎるといよいよ火口壁に登る事になる。きつさもピークをむかえそれぞれが立ち止まっては休憩をする者もいて列もみだれてくる。このあたりの花は素晴らしい。キバナシャクナゲ、シラネアオイ、エゾ

ツガザクラと九州ではみれない花ばかりだ。

待望の外輪山の一角に出る。晴れていけば見れるであろう火口も底まではみえず想像の域の範囲である。

火口の縁は岩混じりの尾根でやがて京極からのルー



(羊蹄山山頂にて)

トと合流するとその先が1892mの三角点の山頂だ。高度差1550mを6時間かけて登ったことになる。霧と小雨の中、山頂でのセレモニーだ。今西流の万歳、記念撮影、そして新宮グループでの新宮大社のお札をかこんでのお経の合唱がふるえながらある。食事もそこに好天であればお鉢をまわって真狩コースを下る予定だったがこの悪天候では仕方ない。登ったコースを引き返すこととする。

下りもまた長くてきつい下りであった。すべらないように慎重に4時間30分かけて下った。結局雨はやむことなく5時30分、11時間かかった山であった。久住山の牧ノ戸コースの3倍はあろうかと思うくらいの疲労度の山であった。

来年の猿年、山口県での猿ヶ山での再会を約して解散した。なお、前日の27日にはお近くのニセコアンヌプリ(1308m)に五色温泉コースで登ったが天候はすぐれず眺望もなかった。2日間の山行でした。ただ九州にはみられない高山植物のきれいな夏の花が楽しませてくれた。

北海道には梅雨がないと言われているが全くの誤りだった。これも地球温暖化の影響だとあきらめた次第である。3日間、新宮やまびこグループにお世話になりました。

ペンリレー・第17回

山との関わり

八重 康夫 (13161)

平成5年に眼科開業後、忙しくて運動不足になり体調管理が必要になりました。何か運動をと考えたのが山歩きをするきっかけでした。所要時間30分位の日出の城山(200m)に登って、山頂でカップラーメンを食べコーヒーを飲んでいるうちだんだんはまっていき、九重から祖母・傾へ、そして日本アルプスへと行くようになりました。ほとんど誰にも指導を受けることのない我流の山歩きでしたが、同じ山を何度も季節や時間を変えて登り、山の性質を少しずつ学びました。しかし上達お遅く、また一人よりも数人でいくことの楽しさも味わいたくなり、鶴見岳中心のホームページ(HP)を立ち上げました。これを經由してネットの山友達ができ、またネットの山の会にも所属し、いろんな人と友達になり益々山にのめりこんでいきました。HPで鶴見山系のルート紹介のため、鍋山の湯から塚原越に登る正規(兔落し)ではない尾根ルートを一人で通っていて迷いババークしたこともあります。この時は当時所属していた大分山の会(星子会長)の方々に多大な迷惑をおかけしました。また藪薙ぎの仕方也不知らず、本当に恥ずかしい思い出の一つです。その後、高校登山部の大会に同行するようになり、いろいろなルートを教えていただき、山への関わりの幅が広がりました。この時、後藤先生や故左藤先生、児玉先生、他の高体連の先生方と知り合いになれたのは大変意義あることでした。ただ、少し余分なきついことを高体連の若い先生に言ったためここでも迷惑をおかけしたと反省しています。また左藤先生が縁で西さんと知り合い、日本山岳会に入会し、心の病を持つ長男がサニースポーツでお世話になり本当にかかわりが深くなりました。仕事はさらに忙しくなり、東九州支部の仕事・山行はほとんど出来なくなりましたが、運動不足とストレス解消のため単独山行は続けておりました。一気登山も平成6年(第7回大会)より参加し、母の危篤・死去時の第9回大会を除いて連続に出場しています。祖母・傾の縦走もやり、九重山系ならほぼオールシーズン行けるようになりました。

その後地元医師会の会長を務めたり、眼科診療の新理論をサンフランシスコで発表したり、英論文に挑戦したりで忙しさが加速しましたが、夏休みは可能な限り年一回取り、これまでに日本アルプス(表銀座、裏銀座、穂高4座、白山、剣岳、立山、白馬三山、五竜岳-鹿島槍、白峰三山)利尻岳、大山、石鎚山などに、単独で登ってきました。別に百名山にはこだわってないのですが、飯豊山などまだ登りたい山はたくさんあります。また西穂-奥穂の縦走、槍から北穂への大キレット、白馬から唐松の不帰の険などもやりたいです。沢登り、岩登りもできれば覚えたいですが、機会もなくあきらめかけています。外国の山にも挑戦したいものです。

山歩きの実力維持・向上のため、トレーニングは、筋トレとジョギングを週各一回行い、また可能な限り週一回山に入るようにしています。雨で山に行けない時は、自宅マンションの2階-14階を20kg担いで10往復します。すると約1時間かかり、山に行った気分になります。

山のおかげでストレス解消ができ、エネルギーをもらい、日々の仕事をこなせます。山を知って本当に良かった。今後も何歳まで一気登山を続けられるか、難易度の高い山行ができるかわかりませんが可能な限り鍛えて山歩きをしたいと考えています。



次回ペンリレーは園田暉明(13135)さんをお願いしました。楽しみにして下さい。

パピル・フェスタ in 坊ガツル ツルに参加して

岩崎 眞琴 (会友200)

第5回『パピル・フェスタ in 坊ガツル』谷口けいさんとくじゅうに登ろう！が支部便りで紹介されたのを目にして参加を決める。久々に法華院温泉山荘に宿泊でき、ミヤマキリシマで混雑するシーズンを前にゆったりとくじゅうの山登りを楽しみたいと思った。『パピル・フェスタ』と世界的に有名な『谷口けい』さんについての知識もないままに…。幸い同じ支部の中野さんから連絡をいただき、大分からは2名で参加することに。

16日(土)はあいにくの小雨模様だが、午前11時過ぎに集合場所の長者原に到着。午後になると、徐々に天候が回復してきた。東京・福岡組と合流後、法華院温泉山荘に向けて出発。

雨ヶ池自然観察コースを経て坊ガツル〜法華院山荘へは3時間あまり。起伏が少なく新緑の森を抜けて行く。周りには、思ったよりもたくさんの苔。雨後で瑞々しく輝いていた。北八ヶ岳の原生林を思わせる雰囲気、雨上がりの緑の瑞々しさに元気をもらう。時折り、ユキザサやイワカガミ、ギンリョウソウが顔を出す。登山口から2時間あまりで雨ヶ池到着。

雨上がりの雨ヶ池は、ぬかるんで迷路の様な登山道だったが、開花し始めたミヤマキリシマとクサボケ、ハシリンドウ(シロバナも)イワカガミの群生に出会えた。途中から姿を現した三俣山にも癒されながら坊ガツルまで歩く。坊ガツルは湿地にサワオグルマの黄色が目立つ。日当たりが良いのか、ミヤマキリシマの紅色が所々目につくようになる。

予定より1時間程遅れての法華院山荘到着。夕食、谷口けいさんの講演等が遅れる事に。

小屋到着、チェックイン。部屋と予定を確認してから入浴。ゆったりと汗を流すことができた。九州最高所の温泉が初日の疲れを癒してくれた。

18:00~夕食。地の物を使った手作りの料理が並び、自然とビールがすすむ。美味しい料理に満足、満腹。ご馳走様。

19:00から谷口けいさんの講演。お話だけでなく登頂した世界の山々がスライドで紹介された。なかなか見ることができないヒマラヤの名峰(景色)が素晴しかった。谷口さんは飾らない人柄で、山の話が新鮮であった。何かを成し遂げ、心から楽しんでいる人の輝く表情と



(講演する谷口けいさん)

エネルギー(オーラ)を感じられたことが一番の収穫であった。その後、皆で山の歌を歌うなど楽しいひと時が過ごせた。

17日(日)朝食は質・量共に満足でき、後半のエネルギーを十分に補給することができた。参加者全員で法華院山荘の看板を背景に記念写真を撮ってから出発。

今日のコースは、鉾立峠から白口岳経由で中岳へ。今日は、天気に恵まれ展望が期待できる。徐々に遠ざかる法華院温泉や坊ガツル見ながら鉾立峠まで歩く。白口岳へのほぼ真っ直ぐで、(峠)がある登山道が見えた。山頂に向かうにつれて坊ガツル小さくなる。途中から平治岳や三俣山の後方に由布岳の姿を発見！久々の好天に山頂からの眺めが素晴らしい、中岳と久住山からも360°のパノラマを楽しんだ。「くじゅう分れ」で待機組と合流し、一路牧ノ戸峠登山口へ。長者原にある法華院温泉別館「花山酔」で汗を流し帰路に。

同行した中野さんのお陰で心に残る山旅ができたことに感謝！



(法華院温泉看板前で)

3等三角点・榑牟礼城と 佐伯惟治

三角点と山城探検シリーズ第15回

安部可人(友11)

大友氏はウムをいわず有力領主を服従させる。肅清する。ザン言などで、無実でもよいから全滅させて、言うことを聞く後継者にその家を再興させる。佐伯惟治の悲劇がその一例です。9歳の千代鶴を後継に願い出て、惟治は早々切腹するのが最善の生き残りでした。

気軽に登れて、どのコースも楽しいです。

1. 古市左谷コース 佐伯ICをおりて、新榑牟礼トンネルのある古市地区で説明板と絵図を見ます。200m先を左折して高速道の下をくぐり、墓地に駐車します。800m「左谷コース」に入ると、荒れた谷間の急登です。100m毎に標識があります。ゆっくり10分で西へ変化してなお急です。谷を抜け上げれば、山頂らしきが見える500m地点です。2分で高度110mの稜線に出ます。ここまで30分です。10分後、「七九谷砦・展望台」の案内地点で休憩します。上下の堀切が今回の最大の見ものです(写真)。「堀の址上



(左谷コース 堀切:二枚とも)

下五ヶ所」とある。平坦な道200m標識の地点が、植林の二の丸で「小田山城ルート」との合流地点です。もう山頂まで数分。

古城の本丸で史談会の説明を読む。「室町中期、佐伯氏第10代薩摩守惟治がこの山城に拠った。今から450年前、大永七年(1527)秋、大友義鑑の命により武将臼杵長景が2万の大軍で攻め寄せた。結局長景の謀略で開城、日向へ落ちていく途中尾高知の峰で33歳惟治一行は悲憤の最期をとげた」とある。

大神系佐伯氏は誇り高く、大友氏に低頭できなかった。よくある話です。9歳の千代鶴を後継に願い出て(遅すぎた)、赦免の知らせが間に合わず息子も自刃しました。大友氏は名門佐伯氏を断絶させず、甥の惟常に継がせた。以後3代に渡り大友に忠節、最後の佐伯惟定は島津侵攻のとき勇名を残しました。佐伯にきた島津軍は、正規軍ではなく榑牟礼城を攻めてはいません。堅田が戦場でした。

2. 古市右谷コース 下山向きの難路だが椿がよい。すぐ堀切を見て、山頂から300mの高度170m台地が「戸上砦」です。高度100m辺りに水流あり、城の水源だったそうです。南東に谷を急降下します。

3. 小田山コース 榑牟礼山から西南に連なる尾根の標高点180(ドコモの無線塔)が小田山城跡です。番匠大橋手前の案内に従って北の小田地区を通過し、林道はNTTドコモ塔と右の丸太の展望施設の中間鞍部、説明図があるWCが終点です。

7分往復して小田山城址で小堀切を見学して戻ります。駐車場から右数分で展望公園へ。北東へ踏み跡程度の小径を緩く約6分下れば、やせ尾根の鞍部にある例のない4連大堀切が見ものです。二の丸へのロープ付きの急斜面は10分間ほど我慢します。35分の最短コースです。

信長の頃から城攻めは相手の城が見える山に仮城を急造している。この小田山城で臼杵長景は佐伯惟治に対峙したでしょう。「学研」の「榑牟礼城・小山田城合戦想像図」は面白い。惟治の怨念か、臼杵長景はその後狂死したともいう。長景築城説の「水ヶ城」を借景として、戸室台に長景の墓はある。

(注) 榑牟礼城は“国史跡申請中”と聞いたが、無線塔建設による小田山城の破壊が難点で惜しい。岡城だけが国史跡、角牟礼城・山野城・佐田城も立候補してよかろう。山野城は遺構の堀切6本が牧野道左に隠れて400年間眠っている。佐田城(青山)は周囲150mの例を見ない深い空堀が恐ろしい。この2城は仲

良し豪族が共同して築いたものです。(H26 3.1 登山)。 地形図「佐伯」

私の無名山ガイドブック N057
**岩伏(709.0m)・奥畑(695.3m)・
 吉峰(635.73m)**

飯田勝之 (10912)

山国町の田野尾川上中流にちょっとした無名の峰があり、稜線や山頂直下までほとんど植林地となっているこの地域では数少ない自然林の残った稜線歩きを楽しむコースがあるので紹介してみよう。しかし、稜線に至るまではご多分にもれず植林地の中の上りは覚悟しなければならぬが・・・

岩伏

中摩殿畑山の登山口となる岩伏が基地となる。集落最奥の民家前の小広場が駐車場で、ひと頃までの登山口であったが、近年上流に幾つも砂防ダム工事が行われて、車はさらに上の方まで行けるようになっている。ここでは最奥の民家から700mほど上った二つ目の砂防ダムが登山口となり、車では3台まではその少し上に駐車できる。

砂防ダムの30mほど上の、左手のスギ林のやや窪地状になった斜面に作業道がまっすぐ上に向かって上っているのが見える。多少荒れているがこれがこのピークへの登路には最適となる。まっすぐな道から、上に行くとジグザグとなりやがて10分あまりで道は消えるがすぐ上に稜線が見えるので直登するとよい。登り着いたところは稜線上の灌木林でこれを左にほぼ平らな稜線を伝う。照葉樹の多い灌木林の中は快適な稜線歩きだがすぐにやや開けたところに着く。伐開されたところでその中央に四等三角点がありその向こうは急斜面で切れ落ちている。木の梢から樋桶山の三角錐が印象的だ。

奥畑

岩伏の集落の手前に、右に入る林道がある。林道峠

六郎木線でコンクリート舗装がされている。この道を上ると約700mで道がほぼ水平になり、舗装が切れて荒れ田道となるので、その手前右手に車回しの小広場があり、ここに車を置いて歩くとよい。敷込木が露出した林道を右左に緩くカーブしながら緩く登っていくと15分ほど(600m)で車回しの広場がある。その左斜面がやや谷状の緩斜面になっており、両側に稜線が見えるが、右上の稜線を目ざして登るとよい。はじめはスギの間伐倒木の緩斜面だが、やがてやや急になるとクヌギ、ナラ、アカマツなどの点在する快適な小稜線の登りだ。10分ほどで岩稜の下に着く。よじ登ると展望が良く、右手に釣鐘山、前方に京岩と奥畑山の間九重連峰が見える。そこはもう山頂直下で岩稜を登り、3分で山頂に至る。南北に少し長い狭い山頂の中央に大きな岩が二つあり、そのすぐ南に四等三角点がある。このピークには、樋桶山から津民に至る道の峠にある、樋桶山登山口から反対に稜線をたどって、二つのピークを越して登ることもでき、変化のある稜線歩きが楽しめるが時間を要する。

吉峰

奥畑から上市平に通じる林道を行くと800mあまりのカーブ地点の上に、鋭角に右に上る林道がある。これを入ると10分(500m)で右手が砂防ダムの上の沢で、30m沢を登ると右手に5mあまりの小滝がある。この滝の谷を登るのだが、滝は左に巻いて登るとよい。沢を少し登ったら右手上に見える稜線を目ざして、ヒノキ林の急斜面を斜めに登る。登りきるとほぼ平らな稜線で、左にとって快適な稜線歩きを楽しむ。最後はやや急な登りでやがて彦見山から伸びた稜線に達し、これを右に行くと5分足らずで四等三角点地



(奥畑の三角点・四等)

点に達する。照葉樹に囲まれた心地よい稜線上の小台地だが展望はない。

地形図：25,000分の(耶馬溪西部)



(上の左が岩伏、右が奥畑、下が吉峰)

典を京王プラザホテルにて開催予定である。

議事にはいる。議長は会長が務める。

定足数 本日出席 138名 委任状1793名 議決行使1483名 合計3414名

会員数 5023名 で 67.9%となり総会成立

(*) 私は受付時にて議決行使カード8票と書いたカードを渡された。要は7名が私宛ての委任状を書いており自分の分を含めて8票の議決権があるという初めての試みである。

事前に郵送されてきた総会資料に基づいて議事がすすめられた。

第1号議案 平成26年度事業報告

第2号議案 平成26年度決算報告

それぞれ担当が資料にそってポイントを説明していく。それに対して質問があったが異議なく承認された。

第3号議案 平成27, 28年度役員選任の件

これに関して数人の意見がでた。選任された15名の理事候補について選任の基準があいまいである。人事に関しては公平性、透明性の原則から公選制にしてはどうかという意見もでた。

今回もっとも会長にふさわしいと思われる方が理事候補の中にはいっていないのはなぜか。

評議委員会で意見がでつくした。今回はこの15名の理事候補で承認くださいとの説明があった。監事については問題ない。それで3号議案は承認された。

その他の項にはいった。

支部長交代の支部が5支部あって紹介された。

平成27年度通常総会報告

日時、平成27年6月20日(土)

支部長 加藤英彦(8765)

午後2時より。

場所、東京都 主婦会館プラザエフ会議室

司会 高原常務

森会長 あいさつ 2年間の任期中を振り返ってのごあいさつがあり。

支部活性化、ユースクラブと成果があがっている。会員高齢化については対策が少しずつ浸透してきている。物故者や退会者もあり現在会員数約5千名で推移している。ただし会費納入者は4千5百名くらいで年間の赤字が600万でいどある。

110周年記念事業については今年12月5日記念式



(通常総会のようす)

ネパール大地震救援募金について説明があった。現在936万の募金があっている。

最後に会費滞納除籍対象者(6月16日)の一覧表が配られた。

東九州支部は5名の対象者が載っていた。(なんとかし

たい、帰ってから再度督促することにした

15時50分終了

このあと新理事が別室で新会長選任をきめるべく理事会をおこなった。16時すぎから会場をかえての懇親会(会費3,000円)となった。その立食懇親会の途中にて上記の理事会で決定された新役員が壇上へのぼり、新会長となった小林政志氏よりの就任のご挨拶があった。



(壇上にそろった新理事、監事のみなさん)

役員定年制で若返った15名の理事と監事となられた重廣さんに今後の会の運営を期待することとなった。頑張ってもらいましょう。

私は帰途の便の関係で途中にて退席した。九州の他の支部の支部長はみえてなかった。

お知らせ

月例山行のご案内

8月月例山行：九重山・遭難慰霊前

日時…8月2日(日)

※ 後載の九重山の安全を祈る集いと併せて実施

9月月例山行：根子岳(阿蘇) (1408.3m) (熊本県)

日時…9月6日(日)

出発…午前7時発

集合場所…大分駅上野の森口広場

参加申込及び問い合わせ連絡先…8月28日(土)までに

リーダー：飯田勝之 (090-2503-8409) まで

10月月例山行：次郎丸岳・太郎丸岳

(1644.2m) (熊本県・天草)

日時…10月10日(土)11日(日)

出発…午前7時発

集合場所…大分駅上野の森口広場

参加申込及び問い合わせ連絡先…8月28日(月)までに

リーダー：下川幸一 (090-8662-5100) まで

シユラブ等野営のできる準備をして下さい。詳しくは参加者同士で相談します

11月月例山行：親父岳(1644.2m) (宮崎県)

日時…11月3日(火)午前9時

集合場所…宮崎県高千穂町五ヶ所小学校前

参加申込及び問い合わせ連絡先…11月15日(木)までに

リーダー：加藤支部長(090-3607-7903)まで

※後載のウエストーン祭とリンクするのでご注意(ウエストーン祭参加者は前日から参加)

第6回山の安全を祈る集い

日時…8月2日(日曜)午前11時

場所…久住御池遭難小屋の上の遭難慰霊碑前(雨天等悪天候の場合は御池遭難小屋で行います)

行事…遭難者の慰霊と登山の安全祈願

趣旨…山の遭難者の慰霊を行うとともに、安全登山を祈る行事として山の安全祈願を行う。

主催…公益社団法人日本山岳会東九州支部と法華院温泉の共催

参加方法…午前11時までに現地(遭難碑前)に集合。

参加対象…一般の登山愛好者

※ みなさんの山友達をたくさん誘って参加して下さい。

※ 会員・会友の参加者は事前に加藤支部長までご連絡下さい。

「山の日」制定記念

in 大分・くじゅう

来年から新たに8月11日が「山の日」として、国民の祝日に指定されました。その前年を記念して九重

山で全国規模の記念行事が実施されることとなりました。山登りを趣味とし、日ごろから山を愛し、山に親しんでいる会員、会友の皆さん方多数のご参加をお願いします。

月 日 8月11日(火)

記念式典 10:00~11:30

オープニングアトイラクシオン
九重あはれ獅子&九重樽太鼓

主催者等のあいさつ
山へのメッセージ
コーラス「坊がつる賛歌」
「山の日」宣言

イベント 11:30~15:00

ルディックウォーキング
九州オルレ九重
自然観察会
いきものウォッチング
親子登山

「坊がつる賛歌」歌謡除幕式 9:30~10:30

長者原ヘルスセンター横

※ 除幕式から参加の方は9時20分までに、記念式典からご参加の方は9時45分までに、いずれもヘルスセンター横の駐車場看板前にお集まり下さい。
式典終了後の行動は、イベントさんかまたは、登山など各自自由行動とします。

第4回登山入門教室受講者募集

今年で4回目を迎える登山入門教室が下記の通り開催されます。

実施期間 9月から12月

座学講座 9月2日(水曜日)から隔週水曜日・11:30から約2時間・4回実施。

実践講座 11月と12月に実際に山に登ったりキャンプしたり、小屋泊まりなどをして2回実施

受講料 5,000円

定員 30名

募集期間 8月21日(金)まで

受講対象者 登山の初心者を対象とする

講座の場所 座学講座 「ホルトホール大分」

問い合わせ及び参加申し込み先

東九州支部事務局 別府市原町5-14 飯田方

Tel・Fax 0977-21-3437 Mobile090-2503-8409

※会員・会友のお知り合いの方で、山登りを始めようという人や始めたばかりの人などがいたら是非受講をお奨め下さい。

第14回青少年体験登山大会

毎年恒例の青少年を始め、一般初心者を対象にした体験登山大会が近づきました。会員・会友もたくさん参加して、一般参加者との同行登山をお願いします。また、一般参加者のお誘いもよろしくお願いします。

実施期日…平成26年9月13日(日)

登山コース…久住山ほか。参加者の自己申告により、「のんびり組・牧ノ戸峠～久住山往復」「元気組・牧ノ戸峠～星生山～久住山～牧ノ戸峠」「健脚組・牧ノ戸峠～久住別れ～中岳～久住山～星生山～牧ノ戸峠」

集合…午前7時・大分駅北口貸し切りバス発着ブース(北口を出て左側広場)

現地参加者は牧ノ戸峠、午前8時30

参加費…1,000円(高校生以下…500円)

現地参加者…300円(牧ノ戸峠集合)

スズタケ枯死・シカの食害調査 参加者募集

日時…10月4日(土)

場所…本谷山西の稜線の定点観測地点

集合…午前7時「道の駅・原尻の滝」

行動…尾平越トンネル口から旧尾平越に登り、約1.2km登った定点観測地点で、大分植物研究会の皆さんと共同作業を行います。

参加者…ボランティアで参加できる方は支部事務局までご連絡下さい。(飯田…090-2503-8409)

第30回宮崎ウエストン祭

日本近代登山の父として知られ、祖母山にも登ったことがある英国人宣教師ウォルター・ウエストン(1861~1940年)を偲ぶ宮崎ウエストン祭が、今年も催され

ます。九州の各支部の会員も集います。皆さんのご参加を。

主催 高千穂町、日本山岳会宮崎支部

日時 11月2日(月)

場所 高千穂町五ヶ所高原・三秀台

参加申し込み 10月15日(木) 加藤支部長(090-3607-7903)まで

集合場所・出発時刻などは参加者同士で相談します。

※ 翌日(11月3日(火))は11月月例山行で、親父岳登山になります。ウエストン祭と月例山行と合わせてご参加下さい。

※なおもし、翌日の親父岳だけの参加希望の場合。

3日、午前9時五ヶ所小学校前集合

涌蓋山でお祝い登山を

甲斐良治・後藤実・渡部昭三氏が今年喜寿

お三方の喜寿をお祝いして登山会を開催します。会員。会友のみならず多数のご参加で、賑やかにお祝い登山を盛り上げて下さい。

月 日…11月1日(日)

場 所…涌蓋山(1500m)・九重町

集合場所…ひぜん湯温泉

集合時刻…午前9時

参加申込…10月24日(土)まで

申込先及び問い合わせ…事務局(飯田勝之)

TEL/FAX・0977-21-3437

携帯・090-2503-8409

E-mail・Yamatomoki@ari.bbiq.jp

※当日山行終了後(夜)に、有志で懇親会を行います。

参加希望者は山行参加申し込み時に一緒に申し込んで下さい。

懇親会

場 所 八丁原ビューホテル

会 費 12,000円(懇親会及び宿泊朝食込み)

第3回支部役員会の開催案内

平成27年度第4回支部役員会を下記の通り開催しますので役員の方はご参集下さい。

日 時…8月20日(木) 午後6時30分より

場 所…大分市「コンパシホール」

議 題・① 登山入門教室について

② 当面の取り組みについて

③ その他

後 記

- ・平成28年から8月11日が「山の日」として、16番目の国民の祝日に加えられることとなった。法律で決まったのは26年5月だが、カレンダーの作成が間に合わないため28年からの実施となった。
- ・当初6月上旬案、海の日翌日案、お盆前案などの中から、盆休みと連続させやすい利点がある8月12日案が採用された。しかし、その日は日本航空便墜落事故と同日のため「事故が起きた日をお祝いするのは違和感を覚える」などの声が群馬県などからあがり、8月11日を山の日とすることを決定したといういきさつがある。
- ・山の日制定の声が産声を上げたのは、日本山岳会の中からである。「海の日ができたが、山の日もあっていいんじゃないか」そんな声から始まり、その声を広めていって法律改正までこぎつけた。何時の時でも、何でも、やはり地道な取り組み、息の長い実践が大事だ。
- ・青少年体験登山大会は今年で14回目だ。韓国との交流も10年目を迎える。登山教室は4年目を数える。支部の唯一の長期恒例行事である月例山行、ずいぶん以前は本当に参加者が少なかった。しかし、最近は賑やかな山行ができるようになった。こうした組織としての行事や行動や取り組みが、生きている支部として証拠だと考える。

(K・I)

公益社団法人日本山岳会東九州支部

東九州支部報 第70号

2015年(平成27年)7月25日発行

発行者 加藤英彦

編集者 飯田勝之・中野 稔

発行所 事務局

〒874-0820 別府市原町5-14 飯田勝之方

TEL・FAX 0977-21-3437

Email yamatomoki@ari.bbiq.jp

